

## II 河川等水質調査

### 1 河川の概要

#### (1) 水質汚濁にかかる環境基準

水質汚濁にかかる環境基準は、公害対策基本法にもとづき、昭和45年の閣議決定によって設定されました。さらに、近年の産業の多様化に対応できるよう、平成5年3月に環境基本法による「人の健康の保護に関する環境基準」が改正され、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン等水質汚濁にかかる人の健康の保護に関する環境基準の15項目が追加されました。さらに平成11年にはふっ素、ほう素、硝酸性窒素および亜硝酸性窒素の3項目、平成21年には1,4-ジオキサンが追加されて現在に至っています。

また、生活環境の保全に関する環境基準のうち、今までの大腸菌「群」数(MPN/100mL)が大腸菌数(CFU/100mL)に変更されました。

基準値については、平成21年に1,1-ジクロロエチレン、平成23年にカドミウム、平成26年にトリクロロエチレン、令和4年に六価クロムが改正され、下記の表のとおりとなっています。

人の健康の保護に関する環境基準

(単位：mg/L)

項目	基準値	項目	基準値
カドミウム (Cd)	0.003 以下	1,1,1-トリクロロエタン	1 以下
全シアン (CN)	検出されないこと	1,1,2-トリクロロエタン	0.006 以下
鉛 (Pb)	0.01 以下	1,1-ジクロロエチレン	0.1 以下
六価クロム (Cr <sup>6+</sup> )	0.02 以下	シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04 以下
ひ素 (As)	0.01 以下	1,3-ジクロロプロペン	0.002 以下
総水銀 (T-Hg)	0.0005 以下	チウラム	0.006 以下
アルキル水銀 (R-Hg)	検出されないこと	シマジン	0.003 以下
PCB (ポリ塩化ビフェニル)	検出されないこと	チオベンカルブ	0.02 以下
トリクロロエチレン	0.01 以下	ベンゼン	0.01 以下
テトラクロロエチレン	0.01 以下	セレン	0.01 以下
四塩化炭素	0.002 以下	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10 以下
ジクロロメタン	0.02 以下	ふっ素	0.8 以下
1,2-ジクロロエタン	0.004 以下	ほう素	1 以下
1,4-ジオキサン	0.05 以下		

生活環境の保全に関する環境基準

項目 類型	pH	BOD (mg/L)	SS (mg/L)	DO (mg/L)	大腸菌数 (CFU/100mL)
AA	6.5~8.5	1 以下	25 以下	7.5 以上	20 以下
A		2 以下			300 以下
B		3 以下		1,000 以下	
C	5 以下	50 以下			
D	6.0~8.5	8 以下	100 以下	2 以上	—
E		10 以下	ごみ等の浮遊が認められないこと		

市内の公共用水域の類型指定と達成期間

指 定 水 域	水域類型	達成期間	指 定 年 月 日
多摩川上流(1) (和田橋より上流)	AA	イ	平成10年 6月 1日 環境庁告示第27号
多摩川上流(2) (和田橋から拝島橋まで)	A	ハ	昭和45年 9月 1日 閣議決定
成木川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号
黒沢川、霞川(埼玉県境から上流)	A	イ	平成29年 3月17日 東京都告示第463号

(達成期間)

イ … ただちに達成                      ロ … 5年以内で可及的速やかに達成

ハ … 5年を超える期間で可及的速やかに達成

主な有害物質について

物質名	性状・用途	健康影響・環境影響
カドミウム (Cd)	重金属。充電式電池、塗料、メッキ工業など用途が広い。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。イタイイタイ病の原因物質とされる。
シアン (CN)	無機化合物。メッキ工業、化学工業など。水中では、シアンイオン、シアン化合物として存在する。	生体への蓄積性はない。急性中毒を引き起こす。シアンに汚染された水を飲用すると急速に粘膜から吸収され、血液中で呼吸酵素を阻害し、頭痛、吐き気、浮腫などを引き起こす。
鉛 (Pb)	重金属。鉛蓄電池、鉛管、ガソリン添加剤など用途が広い。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。
六価クロム (Cr <sup>6+</sup> )	重金属。化学工業薬品・メッキ剤などに用いる。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。皮膚潰瘍、胃・肺ガン、鼻中隔湾曲などを発症する。
ヒ素 (As)	重金属。鉱山、製薬、半導体工業などに用いる。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。肝臓障害、皮膚沈着、皮膚がんなどを発症する。
全水銀 (THg)	重金属。化学工業、電解ソーダ、蛍光灯、計器などに用いる。	環境中で有機水銀に転換する可能性がある。
PCB (ポリ塩化ビフェニル)	有機塩素化合物。かつては、電気絶縁油、熱媒体、ノーカーボン複写紙などに用いられたが、現在は製造されていない。	生体への蓄積性があり、慢性中毒を引き起こす。生体黒色素沈着、塩素座蒼などを発症する。油症事件の原因物質とされる。

※出典 国立環境研究所 公共用水域の水質測定結果データの説明より

## 水の汚れを見分けるモノサシ

項目	説明
pH (水素イオン濃度)	水の酸性、アルカリ性を示す指標。0 から 14 の間の数値で表現されています。pH7 が中性、小さくなるほど酸性、大きくなるほどアルカリ性であることを表しています。通常日本の河川の pH 値は 7.0 前後、海域は 7.8～8.3 前後です。
BOD (生物化学的酸素要求量)	水中の汚濁物質の量について、それが微生物によって酸化分解される際に必要とされる酸素量をもって表したものです。値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準の代表的なもので、主に河川の有機性汚濁物質による水質汚濁指標として用いられています。
SS (浮遊物質)	水中に浮遊して溶解しない物質の総称で、水の汚濁状況を示す重要な指標のひとつです。河川に SS が多くなると、光の透過を妨げ、自浄作用を阻害したり、魚類に悪影響を及ぼします。また、沈降堆積すると、河底の生物にも悪影響を及ぼします。
DO (溶存酸素)	水中に溶解している酸素のこと。酸素が水中に溶解する量は、気圧、水温、溶解塩類濃度により影響を受けます。1 気圧のもとで 20℃の清水には約 9mg/L の酸素が溶解します。水が清純であればあるほど、その条件における飽和量に近くなります。また、日中、水中植物の光合成が行われると、DO は高くなります。
COD (化学的酸素要求量)	水中の汚濁物質の量について、それが酸化剤で化学的に酸化するとき消費される酸素量を持って表したものです。数値が大きくなるほど汚濁が進んでいることを示します。水質環境基準では、海域及び湖沼の水質汚濁指標として用いられています。

※東京都環境局HP 用語集より

### (2) 河川の汚染状況

青梅市では、市内の公共用水域の水質状況の把握と河川の環境保全のため、毎年定期的に河川の水質調査を行うとともに、水質汚濁防止と監視のため、工場や事業所から公共用水域に排出される排出水の調査も行っています。また、有害物質等の蓄積を監視するため底質調査も行っています。

本市の河川の水質は、生活排水に起因する生活項目の1つである生物化学的酸素要求量（以下「BOD」という。）について、環境基準を達成していました。

### (3) 主要河川の調査結果の概要

#### ア 多摩川

BODについて、本流2地点（御岳橋、多摩川橋）を比較してみると、御岳橋では年平均値が前年度0.7mg/L、今年度0.5mg/Lでした。また、多摩川橋では年平均値が前年度0.7mg/L、今年度0.6mg/Lでした。

環境基準については、御岳橋AA類型BOD1mg/L以下、多摩川橋A類型BOD2mg/L以下で、両地点ともに達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成して

いました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



御岳橋



多摩川橋

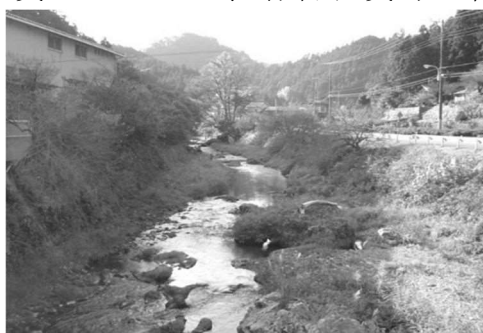
#### イ 成木川

BODについて、本流2地点（北小曾木川合流後、両郡橋[東京都調査]）を比較してみると、北小曾木川合流後では年平均値が前年度0.7 mg/L、今年度0.6 mg/Lでした。また、両郡橋では年平均値が前年度0.5 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成していました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



北小曾木川合流後



両郡橋

#### ウ 黒沢川

BODについて、本流2地点（峯向橋、落合橋[東京都調査]）を比較してみると、峯向橋では年平均値が前年度0.7 mg/L、今年度0.6 mg/Lでした。また、落合橋では年平均値が前年度0.5 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成していました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



峯向橋



落合橋

## エ 霞川

BODについて、本流2地点（城前橋、金子橋[東京都調査]）を比較してみると、城前橋では年平均値が前年度0.7 mg/L、今年度0.6 mg/Lでした。また、金子橋では年平均値が前年度0.6 mg/L、今年度0.5 mg/Lでした。

環境基準については、両地点ともA類型BOD 2 mg/L以下で、達成していました。

健康項目については、本流の全測定地点において、環境基準を達成していました。

底質については、有害物質等の蓄積は見られませんでした。



城前橋



金子橋

### ※ 市内地下水調査

環境調査のため、3か所の井戸で地下水調査を実施しました。

令和6年度の調査結果は、全地点において、カドミウム等重金属類の有害物質は検出されませんでした。

### ※ 事業所水質調査

水質汚濁防止と監視のため、工場や事業所の排水の水質を調査しました。

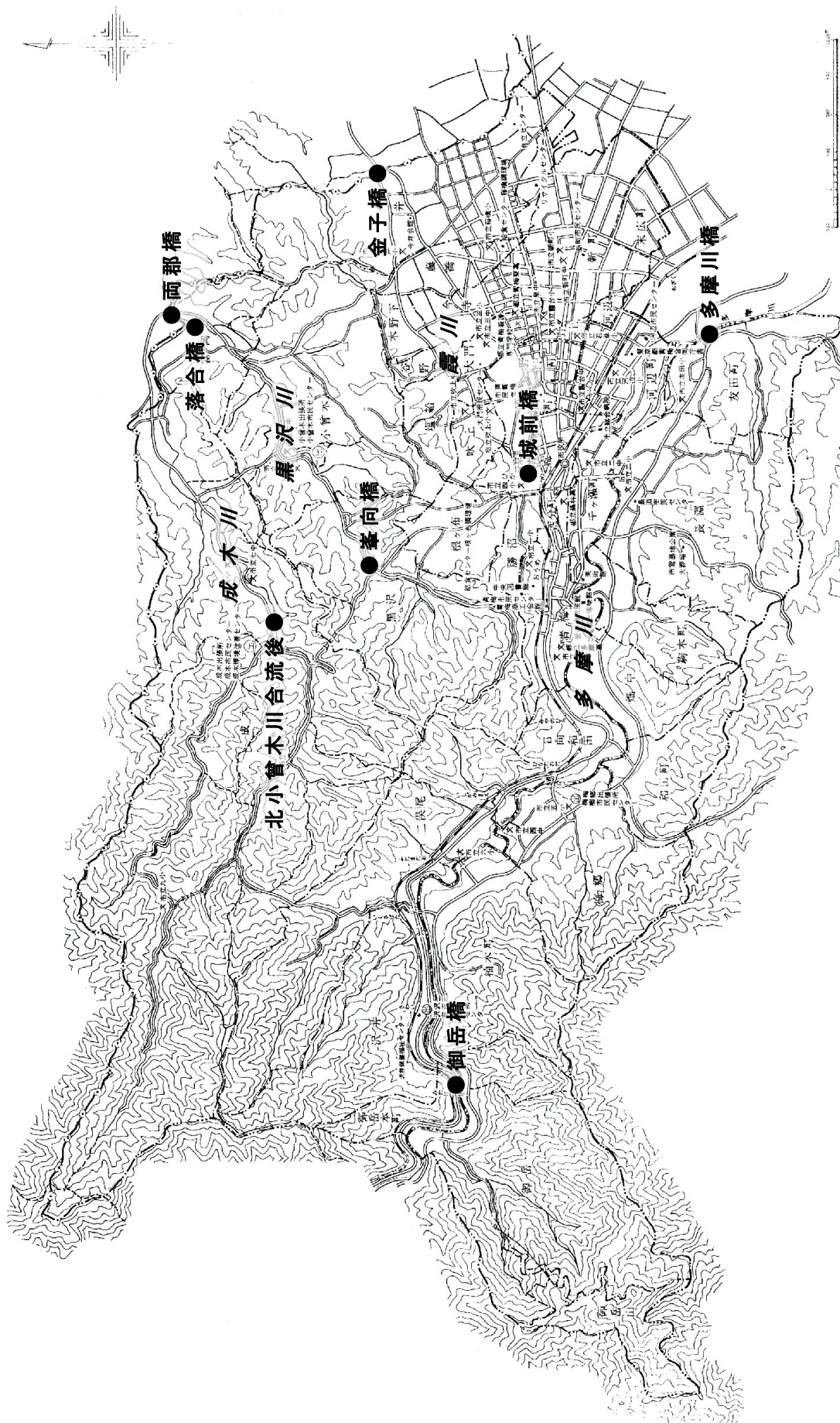
令和6年度は7事業所に立ち入り、調査した結果、すべての事業所で環境基準を満たしていました。

### ※ 河川および地下水中のPFOS・PFOA調査

環境調査のため、井戸水・湧水の計2か所の調査を実施しました。

令和6年度の調査結果は、井戸水のみ暫定指針値を超過していました。

河川水質調査地図



## 2 調査結果（年平均）

河川区分(類型)		多摩川本流(AA)		多摩川本流(A)			多摩川支流(なし)				
調査地点		御岳橋	神代橋	万年橋	下奥多摩橋	多摩川橋	平溝川	平溝川上流	町屋川	馬引川	市立美術館
現場測定項目	採取位置	右岸	右岸	左岸	右岸	流心	流心	流心	流心	流心	流心
	採取水深	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	
	気温 (°C)	19.0	21.4	22.4	21.1	20.3	12.5	28.6	15.0	26.6	19.2
	水温 (°C)	15.5	17.8	17.7	17.8	15.6	11.2	25.0	10.2	22.0	20.5
	透視(明)度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
生活環境項目	pH	7.5	7.7	7.6	7.7	7.6	7.5	7.6	7.4	7.7	7.3
	DO (mg/L)	11.9				11.0					
	BOD (mg/L)	0.5				0.6					
	COD (mg/L)					1.9					
	SS (mg/L)	2.5				2.4					
	大腸菌数 (CFU/100mL)	6	3	10	14	15	8	16	8	10	
	全窒素 (mg/L)					0.85					
	全りん (mg/L)					0.023					
	カドミウム (mg/L)	<0.0003				<0.0003					<0.0003
	全シアン (mg/L)	<0.01				<0.1				<0.01	<0.01
健康項目	鉛 (mg/L)	<0.001				<0.002				<0.001	<0.001
	ひ素 (mg/L)	<0.001				<0.005				<0.001	<0.001
	全水銀 (mg/L)	<0.0005				<0.0005				<0.0005	<0.0005
	1,4-ジオキサン (mg/L)					<0.005					
	全クロム (mg/L)	<0.01				<0.01				<0.01	
その他の項目	MBAS (mg/L)	<0.02				<0.02					0.01
	アンモニウム性窒素 (mg/L)	0.03				0.02				0.01	0.03
	りん酸性りん (mg/L)	0.008				0.011				0.01	
	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素 (mg/L)					0.52					
	ふっ素 (mg/L)					<0.02					
	ほう素 (mg/L)					0.01					
	六価クロム (mg/L)					<0.01					
	アルキル水銀 (mg/L)					<0.0005					
	PCB (mg/L)					<0.0005					
	全垂鉛 (mg/L)					0.001					
	ノニルフェノール (mg/L)					<0.00006					
	LAS (mg/L)					<0.0006					
	追加15項目					不検出					

※追加15項目：ジクロロメタン、四塩化炭素、1,2-ジクロロエタン、1,1-ジクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタン、1,1,2-トリクロロエタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン、1,3-ジクロロプロペン、ベンゼン、チウラム、シマジン、チオベンカルブ、セレン

河川区分(類型)		多摩川支流(なし)					成木川本流(A)			
調査地点		清見川	清見川上流	霞台放流渠	鳶巣川	四谷川	大荷田川	山神橋	梅ヶ平	北小曾木川合流前
現場測定項目	採取位置	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心
	採取水深	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層
	気温 (°C)	27.2	26.2	25.2	25.7	26.6	23.9	12.4	29.0	22.6
	水温 (°C)	21.0	21.8	19.2	20.2	21.4	19.7	9.6	25.2	19.5
	透視(明)度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
生活環境項目	pH	7.5	7.8	7.7	7.4	7.4	7.1	7.6	7.7	7.7
	DO (mg/L)	11.5			10.9	11.6	9.7			
	BOD (mg/L)	0.5			<0.5	0.7	0.6			
	COD (mg/L)									
	SS (mg/L)	<1			1	<1	<1			
	大腸菌数 (CFU/100mL)	6			31		16	32	12	24
	全窒素 (mg/L)									
健康項目	全りん (mg/L)									
	カドミウム (mg/L)	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003	<0.0003			
	全シアン (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	鉛 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001			
	ひ素 (mg/L)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001			
その他の項目	全水銀 (mg/L)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005			
	全クロム (mg/L)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01			
	MBAS (mg/L)									
	アンモニウム性窒素 (mg/L)	0.01	0.01	0.01	0.02	0.01	0.03			
	りん酸性りん (mg/L)	0.014	0.01	0.018	0.024	0.021	0.028			

河川区分(類型)		成木川本流 (A)			成木川支流 (なし)		黒沢川本流 (A)			
調査地点		北小曾木川 合流後	直竹川合流前	黒沢川合流前	北小曾木川	二本竹川	大熊神社前	峯向橋	鉄平橋	第六中学校前
現場測定項目	採取位置	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心
	採取水深	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層
	気温 (°C)	15.7	22.5	22.7	11.5	25.4	25.3	18.8	27.3	24.9
	水温 (°C)	14.2	19.3	21.6	10.0	19.9	18.2	16.3	19.5	21.1
	透視(明)度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
生活環境項目	pH	7.3	7.8	7.8	7.7	7.5	7.6	7.5	7.3	7.8
	DO (mg/L)	11.5				10.2	9.8	11.2	12.1	11.3
	BOD (mg/L)	0.6				0.6	<0.5	0.6	0.8	<0.5
	COD (mg/L)									
	SS (mg/L)	1				6	<1	1.2	2	5
	大腸菌数 (CFU/100mL)		11	66	28	18	66	72		43
	全窒素 (mg/L)									
	全りん (mg/L)									
健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003		<0.0003				<0.0003		
	全シアン (mg/L)	<0.01		<0.01				<0.01		
	鉛 (mg/L)	<0.001		<0.001				<0.001		
	ひ素 (mg/L)	<0.001		<0.001				<0.001		
	全水銀 (mg/L)	<0.0005		<0.0005				<0.0005		
その他の項目	全クロム (mg/L)	<0.01		<0.01				<0.01		
	MBAS (mg/L)	<0.02		<0.02				<0.02		
	アンモニア性窒素 (mg/L)	0.02		0.02				0.02		
	りん酸性りん (mg/L)	0.008		0.024				0.020		

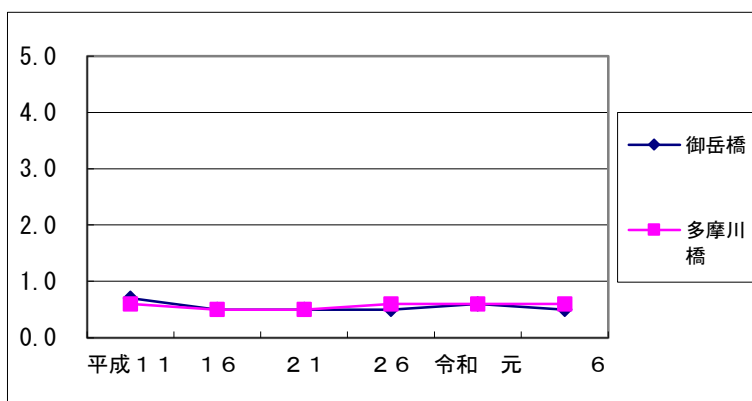
河川区分(類型)		黒沢川支流 (なし)					霞川本流(A)	霞川支流 (なし)		
調査地点		黒沢1丁目 地内水路	日原沢	中央橋	杉板橋	小布市川	城前橋	勝沼小曾木	根ヶ布川	矢端川
現場測定項目	採取位置	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心	流心
	採取水深	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層	表層
	気温 (°C)	33.2	20.0	28.6	28.0	26.2	20.0	19.4	32.5	18.2
	水温 (°C)	25.4	15.8	27.6	27.4	21.1	17.1	14.6	26.1	17.5
	透視(明)度 (cm)	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50	>50
生活環境項目	pH	7.9	7.2	7.8	7.8	7.6	7.4	7.0	7.7	8.1
	DO (mg/L)		11.4			9.9	10.8	11.6	10.1	11.6
	BOD (mg/L)		0.6			<0.5	0.6	0.6	0.7	0.9
	COD (mg/L)									
	SS (mg/L)		<1			8	1.2	<1	<1	1
	大腸菌数 (CFU/100mL)			110	46	62	78			
	全窒素 (mg/L)									
	全りん (mg/L)									
健康項目	カドミウム (mg/L)	<0.0003					<0.0003		<0.0003	<0.0003
	全シアン (mg/L)	<0.01					<0.01		<0.01	<0.01
	鉛 (mg/L)	<0.001					<0.001		<0.001	<0.001
	ひ素 (mg/L)	<0.001					<0.001		<0.001	<0.001
	全水銀 (mg/L)	<0.0005					<0.0005		<0.0005	<0.0005
その他の項目	全クロム (mg/L)	<0.01					<0.01		<0.01	<0.01
	MBAS (mg/L)						<0.02			<0.02
	アンモニア性窒素 (mg/L)	0.02					0.02		0.01	0.02
	りん酸性りん (mg/L)	0.042					0.006		0.010	0.015

### 3 BOD経年変化（数値は年平均値）

#### ○ 多摩川

（単位：mg/L）

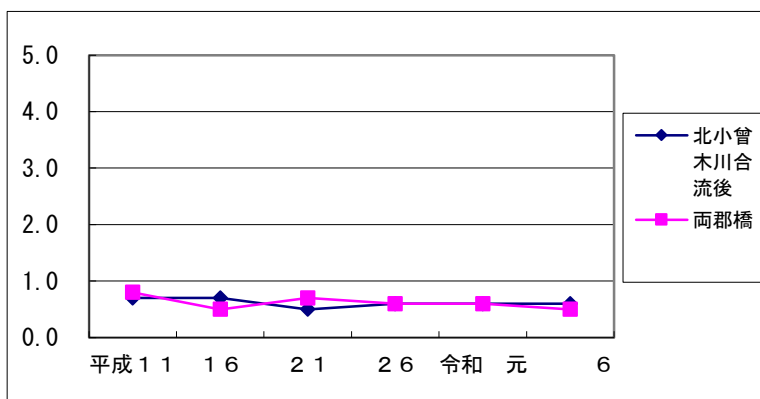
年度	御岳橋	多摩川橋
平成11	0.7	0.6
16	0.5	0.5
21	0.5	0.5
26	0.5	0.6
令和元	0.6	0.6
6	0.5	0.6
現在の環境基準	1 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 成木川

（単位：mg/L）

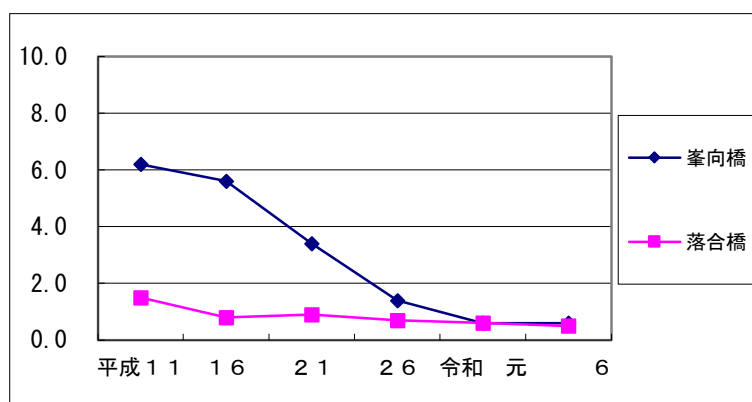
年度	北小曾木川合流後	両郡橋
平成11	0.7	0.8
16	0.7	0.5
21	0.5	0.7
26	0.6	0.6
令和元	0.6	0.6
6	0.6	0.5
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 黒沢川

（単位：mg/L）

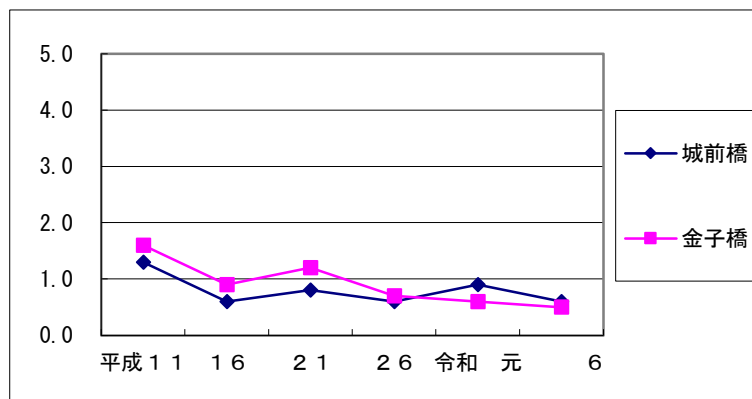
年度	峯向橋	落合橋
平成11	6.2	1.5
16	5.6	0.8
21	3.4	0.9
26	1.4	0.7
令和元	0.6	0.6
6	0.6	0.5
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### ○ 霞川

（単位：mg/L）

年度	城前橋	金子橋
平成11	1.3	1.6
16	0.6	0.9
21	0.8	1.2
26	0.6	0.7
令和元	0.9	0.6
6	0.6	0.5
現在の環境基準	2 mg/L 以下	2 mg/L 以下



#### 4 藻類・底生生物調査結果

調査目的：アユの餌となる付着藻類の現状把握のため、年3回、市内の多摩川の3か所において調査を実施しました。また併せて年1回、市民球技場において底生生物および川石の付着物の定性分析を追加実施しました。経年変化の確認のため、過去の分析資料から底生生物、付着藻類について出現種を集計したところ、年間変動に規則性は見られず、付着藻類や水生昆虫、魚類などの生物量が多く、アユも生息するきれいな水域であるとの結果でした。

調査日：令和6年4月23日、令和6年9月27日、令和6年12月16日

調査地点：市内多摩川3か所（市民球技場、和田橋、楓橋）

- 調査項目：(1) 乾燥重量（採取した検体を乾燥させて計測したもの）  
 (2) 強熱減量（採取した検体をガスバーナーで加熱して、無くなった値＝藻類などの有機物量）  
 (3) 灰分率（無機物の割合）  
 (4) クロロフィル a（水中の植物プランクトンの量）  
 (5) 付着藻類同定調査  
 (6) 底生生物同定調査  
 (7) 定性分析

##### (1) 灰分等調査結果

調査地点、調査項目		調査日		
		4.23	9.27	12.16
市民球技場	乾燥重量 (mg)	24.0	44.4	12.6
	強熱減量 (wt%)	19.0	16.5	35.7
	灰分 (wt%)	81.0	83.5	64.3
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	2.7	6.6	4.0
和田橋	乾燥重量 (mg)	37.0	24.2	8.2
	強熱減量 (wt%)	25.4	20.8	32.4
	灰分 (wt%)	74.6	79.2	67.6
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	1.7	7.8	3.2
楓橋	乾燥重量 (mg)	53.6	21.6	12.3
	強熱減量 (wt%)	15.3	12.2	33.9
	灰分 (wt%)	84.7	87.8	66.1
	クロロフィル a ( $\mu\text{g}/\text{cm}^2$ )	1.8	2.9	3.6

## (2) 付着藻類調査結果 (調査日: 令和6年4月23日)

## ア 出現種一覧

単位: 細胞数/mm<sup>2</sup>

No	類	種名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学名	和名			
				2024. 4. 23		
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ヒ <sup>レ</sup> ロト <sup>ラ</sup> ソウ	420	19	
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤモ	48		
3		<i>Chamaesiphon minutus</i>	コンボ <sup>ウ</sup> ソウ			
4	珪藻類	<i>Cyclotella</i> sp.	ヒメマルケイウ	6		12
5		<i>Melosira varians</i>	チャツ <sup>ツ</sup> ケイウ		29	60
6		<i>Diatoma moniliformis</i>	イタケイウ	108	58	252
7		<i>Diatoma vulgare</i>	イタケイウ	144	163	900
8		<i>Fragilaria capitellata</i>	オビ <sup>ケ</sup> イウ	36	19	300
9		<i>Fragilaria capucina</i>	オビ <sup>ケ</sup> イウ		10	24
10		<i>Fragilaria crotonensis</i>	オビ <sup>ケ</sup> イウ	6		
11		<i>Fragilaria rumpens</i>	オビ <sup>ケ</sup> イウ		19	48
12		<i>Fragilaria vaucheriae</i>	オビ <sup>ケ</sup> イウ		77	96
13		<i>Fragilaria</i> sp.	オビ <sup>ケ</sup> イウ			12
14		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハリケイウ	264	384	1,260
15		<i>Ulnaria pseudogaillonii</i>	ハリケイウ			
16		<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイウ	12	19	12
17		<i>Amphora pediculus</i>	ニセクチビ <sup>ル</sup> ケイウ		19	
18		<i>Cymbella aspera</i>	クチビ <sup>ル</sup> ケイウ			
19		<i>Cymbella compactiformis</i>	クチビ <sup>ル</sup> ケイウ			
20		<i>Cymbella distalebiseriata</i>	クチビ <sup>ル</sup> ケイウ	6	10	24
21		<i>Cymbella janischii</i>	クチビ <sup>ル</sup> ケイウ	12	10	12
22		<i>Cymbella tumida</i>	クチビ <sup>ル</sup> ケイウ	6	10	12
23		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i>	クチビ <sup>ル</sup> ケイウ	708	19	96
24		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>turgidula</i>	クチビ <sup>ル</sup> ケイウ			
25		<i>Encyonema leei</i>	ハラミクチビ <sup>ル</sup> ケイウ		19	
26		<i>Encyonema minutum</i>	ハラミクチビ <sup>ル</sup> ケイウ	228	38	132
27		<i>Encyonema prostratum</i>	ハラミクチビ <sup>ル</sup> ケイウ			
28		<i>Encyonema silesiacum</i>	ハラミクチビ <sup>ル</sup> ケイウ	2,364	1,968	5,700
29		<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxonica</i>	ヒシガ <sup>タ</sup> ケイウ			12
30		<i>Frustulia vulgaris</i>	ヒシガ <sup>タ</sup> ケイウ		19	
31		<i>Gomphoneis heterominuta</i>	クサビ <sup>フ</sup> ネケイウ	12		24
32		<i>Gomphoneis minuta</i>	クサビ <sup>フ</sup> ネケイウ	5	10	
33		<i>Gomphoneis okunoi</i>	クサビ <sup>フ</sup> ネケイウ			48
34	<i>Gomphonema angustum</i>	クサビ <sup>ケ</sup> イウ				
35	<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビ <sup>ケ</sup> イウ	24	10	12	
36	<i>Gomphonema gracile</i>	クサビ <sup>ケ</sup> イウ				
37	<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビ <sup>ケ</sup> イウ				
38	<i>Navicula bacillum</i>	フネケイウ				
39	<i>Navicula capitatoradiata</i>	フネケイウ	24	10	12	
40	<i>Navicula cari</i>	フネケイウ		10		
41	<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイウ		19		
42	<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイウ	24		36	
43	<i>Navicula decussis</i>	フネケイウ			24	

44		<i>Navicula gregaria</i>	フネイウ	24	29	24
45		<i>Navicula lanceolata</i>	フネイウ			12
46		<i>Navicula minima</i>	フネイウ			
47		<i>Navicula nipponica</i>	フネイウ			24
48		<i>Navicula phyllepta</i>	フネイウ	24	29	
49		<i>Navicula rostellata</i>	フネイウ			
50		<i>Navicula slesvicensis</i>	フネイウ			
51		<i>Navicula subalpina</i>	フネイウ	24	19	36
52		<i>Navicula subrostellata</i>	フネイウ			
53		<i>Navicula tripunctata</i>	フネイウ	96	77	156
54		<i>Navicula sp.</i>	フネイウ	84	106	48
55		<i>Reimeria sinuata</i>	カコマケイウ			24
56		<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マカ <sup>リ</sup> クサ <sup>ヒ</sup> ケイウ			
57		<i>Sellaphora pupula</i>	エリツケイウ			
58		<i>Achnanthydium atomus</i>	ツメワケイウ	72		
59		<i>Achnanthydium convergens</i>	ツメワケイウ	84	336	336
60		<i>Achnanthydium minutissimum</i>	ツメワケイウ	120	96	49
61		<i>Achnanthydium pyrenaicum</i>	ツメワケイウ	5,676	211	540
62		<i>Cocconeis pediculus</i>	コバンケイウ	48	86	48
63		<i>Cocconeis placentula</i>	コバンケイウ	12	19	72
64		<i>Planothydium lanceolatum</i>	フトスジ ツメワケイウ			
65		<i>Nitzschia dissipata</i>	ササハケイウ	204	1,056	948
66		<i>Nitzschia fonticola</i>	ササハケイウ	120	317	540
67		<i>Nitzschia frustulum</i>	ササハケイウ		19	24
68		<i>Nitzschia inconspicua</i>	ササハケイウ			24
69		<i>Nitzschia linearis</i>	ササハケイウ	12	38	12
70		<i>Nitzschia palea</i>	ササハケイウ			
71		<i>Nitzschia paleacea</i>	ササハケイウ			
72		<i>Nitzschia perminuta</i>	ササハケイウ			
73		<i>Nitzschia vermicularis</i>	ササハケイウ		19	
74		<i>Surirella bifrons</i>	オオバンケイウ		10	12
75	緑藻類	<i>Ulothrix zonata</i>	ヒビミドロ	60	48	96
76		<i>Cloniophora sp.</i>	クロニオフォラ			
77		<i>Stigeoclonium sp.</i>	キヌミドロ			
78		<i>Cladophora crispata</i>	シオクサ		19	
79		<i>Spirogya sp.</i>	アオミドロ			

\*:糸状体数、他は細胞数

イ 出現種の分類学的集計結果

分類	調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
藍藻類 Cyanophyceae		2種	1種	1種
珪藻類 Bacillariophyceae		32種	39種	42種
緑藻類 Chlorophyceae		1種	2種	1種
種数合計		35種	42種	44種
細胞数合計 (1mm <sup>2</sup> 当たり)		11,118	5,502	12,373

ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
優占種 (優占度%)	<i>Achnanthydium convergens</i> ツメワカレケイソウ (51.1%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (35.8%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (46.1%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Encyonema silesiacum</i> ハラミクチビルケイソウ (21.3%)	<i>Nitzschia dissipata</i> ササノハケイソウ (19.2%)	<i>Ulnaria inaequalis</i> ハリケイソウ (10.2%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Cymbella turgidula var. nipponica</i> クチビルケイソウ (6.4%)	<i>Achnanthydium convergens</i> ツメワカレケイソウ (6.1%)	<i>Nitzschia dissipata</i> ササノハケイソウ (7.1%)

(3) 付着藻類調査結果 (調査日: 令和6年9月27日)

ア 出現種一覧

単位: 細胞数/㎠

No	類	種名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学名	和名			
		2024. 9. 27				
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ヒ <sup>ゝ</sup> ロウト <sup>ゝ</sup> ランソウ	432	804	965
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤユモ	19	24	
3	珪藻類	<i>Chamaesiphon minutus</i>	コンボ <sup>ゝ</sup> ウレンソウ			67
4		<i>Cyclotella</i> sp.	ヒマ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ			
5		<i>Melosira varians</i>	チャツ <sup>ゝ</sup> ツケイソウ	250	12	67
6		<i>Diatoma moniliformis</i>	イタケイソウ			
7		<i>Diatoma vulgare</i>	イタケイソウ	10	12	
8		<i>Fragilaria capitellata</i>	オビ <sup>ゝ</sup> ケイソウ			5
9		<i>Fragilaria capucina</i>	オビ <sup>ゝ</sup> ケイソウ	19		
10		<i>Fragilaria crotonensis</i>	オビ <sup>ゝ</sup> ケイソウ			
11		<i>Fragilaria rumpens</i>	オビ <sup>ゝ</sup> ケイソウ			
12		<i>Fragilaria vaucheriae</i>	オビ <sup>ゝ</sup> ケイソウ	10	24	
13		<i>Fragilaria</i> sp.	オビ <sup>ゝ</sup> ケイソウ			
14		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハリケイソウ			5
15		<i>Ulnaria pseudogaillonii</i>	ハリケイソウ		12	
16		<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイソウ	58	24	10
17		<i>Amphora pediculus</i>	ニセチビ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ			5
18		<i>Cymbella aspera</i>	クチビ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ		12	5
19		<i>Cymbella compactiformis</i>	クチビ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ		36	5
20		<i>Cymbella distalebiseriata</i>	クチビ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ	19	12	
21		<i>Cymbella janischii</i>	クチビ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ			
22		<i>Cymbella tumida</i>	クチビ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ	10	24	10
23		<i>Cymbella turgidula var. nipponica</i>	クチビ <sup>ゝ</sup> ルケイソウ	38	12	10

24	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>turgidula</i>	クチビ <sup>レ</sup> ルケイソウ	970	516	106
25	<i>Encyonema leei</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ルケイソウ	240	48	
26	<i>Encyonema minutum</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ルケイソウ	19	48	10
27	<i>Encyonema prostratum</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ルケイソウ	10		
28	<i>Encyonema silesiacum</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ルケイソウ			10
29	<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxonica</i>	ヒシカ <sup>レ</sup> タケイソウ			5
30	<i>Frustulia vulgaris</i>	ヒシカ <sup>レ</sup> タケイソウ			
31	<i>Gomphoneis heterominuta</i>	クサビ <sup>レ</sup> フネケイソウ	86	24	19
32	<i>Gomphoneis minuta</i>	クサビ <sup>レ</sup> フネケイソウ	10	12	
33	<i>Gomphoneis okunoi</i>	クサビ <sup>レ</sup> フネケイソウ	38	12	19
34	<i>Gomphonema angustum</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ	19		10
35	<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ		12	5
36	<i>Gomphonema gracile</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ	10	12	5
37	<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ	29	24	34
38	<i>Navicula bacillum</i>	フネケイソウ		12	
39	<i>Navicula capitatoradiata</i>	フネケイソウ			10
40	<i>Navicula cari</i>	フネケイソウ	77	156	38
41	<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイソウ	29	84	14
42	<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ	307	372	389
43	<i>Navicula decussis</i>	フネケイソウ			
44	<i>Navicula gregaria</i>	フネケイソウ	336	396	422
45	<i>Navicula lanceolata</i>	フネケイソウ			
46	<i>Navicula minima</i>	フネケイソウ		24	10
47	<i>Navicula nipponica</i>	フネケイソウ		24	5
48	<i>Navicula phyllepta</i>	フネケイソウ	77	84	62
49	<i>Navicula rostellata</i>	フネケイソウ	38		10
50	<i>Navicula slesvicensis</i>	フネケイソウ	29	24	5
51	<i>Navicula subalpina</i>	フネケイソウ	10	48	10
52	<i>Navicula subrostellata</i>	フネケイソウ			5
53	<i>Navicula tripunctata</i>	フネケイソウ	38	12	5
54	<i>Navicula</i> sp.	フネケイソウ	38	24	
55	<i>Reimeria sinuata</i>	カイコマケイソウ	77	192	29
56	<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マカ <sup>レ</sup> リクサビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
57	<i>Sellaphora pupula</i>	エリツキケイソウ		12	
58	<i>Achnanthydium atomus</i>	ツメワカケイソウ		156	
59	<i>Achnanthydium convergens</i>	ツメワカケイソウ	1, 536	2, 220	446
60	<i>Achnanthydium minutissimum</i>	ツメワカケイソウ	19	240	10
61	<i>Achnanthydium pyrenaicum</i>	ツメワカケイソウ	125	320	144
62	<i>Cocconeis pediculus</i>	コバンケイソウ			
63	<i>Cocconeis placentula</i>	コバンケイソウ	38	24	19
64	<i>Planothydium lanceolatum</i>	フトスジ <sup>レ</sup> ツメワカケイソウ	19		
65	<i>Nitzschia dissipata</i>	ササノハケイソウ	115	192	158
66	<i>Nitzschia fonticola</i>	ササノハケイソウ	38		
67	<i>Nitzschia frustulum</i>	ササノハケイソウ	38		10
68	<i>Nitzschia inconspicua</i>	ササノハケイソウ			
69	<i>Nitzschia linearis</i>	ササノハケイソウ	10		
70	<i>Nitzschia palea</i>	ササノハケイソウ	19		14
71	<i>Nitzschia paleacea</i>	ササノハケイソウ	29	24	19
72	<i>Nitzschia perminuta</i>	ササノハケイソウ			
73	<i>Nitzschia vermicularis</i>	ササノハケイソウ			

74		<i>Surirella bifrons</i>	オバンケイウ			
75	緑藻類	<i>Ulothrix zonata</i>	ヒビミドロ			
76		<i>Cloniophora sp.</i>	クロコフクラ	67		
77		<i>Stigeoclonium sp.</i>	キヌミドロ	192	36	19
78		<i>Cladophora crispata</i>	シオグサ			
79		<i>Spirogyra sp.</i>	アオミドロ			

\*:糸状体数、他は細胞数

イ 出現種の分類学的集計結果

調査地点		市民球技場	和田橋	楓橋
分類				
藍藻類	Cyanophyceae	2種	2種	2種
珪藻類	Bacillariophyceae	39種	40種	41種
緑藻類	Chlorophyceae	2種	1種	1種
種数合計		44種	43種	44種
細胞数合計 (1 mm <sup>2</sup> あたり)		5,597	6,392	3,230

ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
優占種 (優占度%)	<i>Achnantheidium convergens</i> ツメワカレケイソウ (27.4%)	<i>Achnantheidium convergens</i> ツメワカレケイソウ (34.7%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (29.9%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Cymbella turgidula ver.</i> <i>turgidula</i> クチビルケイソウ (17.3%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (12.6%)	<i>Achnantheidium convergens</i> ツメワカレケイソウ (13.8%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (7.7%)	<i>Cymbella turgidula ver.</i> <i>turgidula</i> クチビルケイソウ (8.1%)	<i>Navicula gregaria</i> フネケイソウ (13.1%)

## (4) 付着藻類調査結果 (調査日: 令和6年12月16日)

## ア 出現種一覧

単位: 細胞数/mm<sup>2</sup>

No	類	種名		市民球技場	和田橋	楓橋
		学名	和名			
				2024.12.16		
1	藍藻類	<i>Homoeothrix janthina</i> *	ヒ <sup>レ</sup> ロト <sup>レ</sup> ランソウ	1,995	2,400	1,440
2		<i>Phormidium</i> spp. *	サヤユモ	760	360	120
3	珪藻類	<i>Chamaesiphon minutus</i>	コンボ <sup>レ</sup> ウランソウ		360	
4		<i>Cyclotella</i> sp.	ヒメマルケイソウ			
5		<i>Melosira varians</i>	チャヅ <sup>レ</sup> ツケイソウ	19	96	96
6		<i>Diatoma moniliformis</i>	イタケイソウ	114	24	48
7		<i>Diatoma vulgare</i>	イタケイソウ	152	96	912
8		<i>Fragilaria capitellata</i>	オビ <sup>レ</sup> ケイソウ	76	144	
9		<i>Fragilaria capucina</i>	オビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
10		<i>Fragilaria crotonensis</i>	オビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
11		<i>Fragilaria rumpens</i>	オビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
12		<i>Fragilaria vaucheriae</i>	オビ <sup>レ</sup> ケイソウ	19		48
13		<i>Fragilaria</i> sp.	オビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
14		<i>Ulnaria inaequalis</i>	ハリケイソウ	1,881	2,520	1,152
15		<i>Ulnaria pseudogaillonii</i>	ハリケイソウ		24	
16		<i>Ulnaria ulna</i>	ハリケイソウ		48	48
17		<i>Amphora pediculus</i>	ニセクチビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
18		<i>Cymbella aspera</i>	クチビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
19		<i>Cymbella compactiformis</i>	クチビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
20		<i>Cymbella distalebiseriata</i>	クチビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
21		<i>Cymbella janischii</i>	クチビ <sup>レ</sup> ケイソウ	19	24	24
22		<i>Cymbella tumida</i>	クチビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
23		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i>	クチビ <sup>レ</sup> ケイソウ	6,745	3,336	1,176
24		<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>turgidula</i>	クチビ <sup>レ</sup> ケイソウ	418	312	192
25		<i>Encyonema leei</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ケイソウ	38		48
26		<i>Encyonema minutum</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ケイソウ	76	48	24
27		<i>Encyonema prostratum</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
28		<i>Encyonema silesiacum</i>	ハラミクチビ <sup>レ</sup> ケイソウ		48	
29		<i>Frustulia rhomboides</i> var. <i>saxonica</i>	ヒシカ <sup>レ</sup> ケイソウ			
30		<i>Frustulia vulgaris</i>	ヒシカ <sup>レ</sup> ケイソウ			
31		<i>Gomphoneis heterominuta</i>	クサビ <sup>レ</sup> フネケイソウ			
32		<i>Gomphoneis minuta</i>	クサビ <sup>レ</sup> フネケイソウ	190	360	288
33		<i>Gomphoneis okunoi</i>	クサビ <sup>レ</sup> フネケイソウ	114	336	144
34		<i>Gomphonema angustum</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ	19		
35		<i>Gomphonema clavatum</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
36		<i>Gomphonema gracile</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ			
37		<i>Gomphonema parvulum</i>	クサビ <sup>レ</sup> ケイソウ	19	48	
38		<i>Navicula bacillum</i>	フネケイソウ			
39		<i>Navicula capitatoradiata</i>	フネケイソウ			
40		<i>Navicula cari</i>	フネケイソウ	38		
41		<i>Navicula cryptocephala</i>	フネケイソウ			
42		<i>Navicula cryptotenella</i>	フネケイソウ	57	48	
43		<i>Navicula decussis</i>	フネケイソウ			

44		<i>Navicula gregaria</i>	フネイウ	38		48
45		<i>Navicula lanceolata</i>	フネイウ			
46		<i>Navicula minima</i>	フネイウ			
47		<i>Navicula nipponica</i>	フネイウ			
48		<i>Navicula phyllepta</i>	フネイウ			
49		<i>Navicula rostellata</i>	フネイウ			
50		<i>Navicula slesvicensis</i>	フネイウ			
51		<i>Navicula subalpina</i>	フネイウ			48
52		<i>Navicula subrostellata</i>	フネイウ			
53		<i>Navicula tripunctata</i>	フネイウ		24	24
54		<i>Navicula sp.</i>	フネイウ			24
55		<i>Reimeria sinuata</i>	カコマケイウ	38		
56		<i>Rhoicosphenia abbreviata</i>	マカ <sup>リ</sup> クサ <sup>ヒ</sup> ケイウ			24
57		<i>Sellaphora pupula</i>	エリツケイウ			
58		<i>Achnanthydium atomus</i>	ツメワカケイウ	190	192	144
59		<i>Achnanthydium convergens</i>	ツメワカケイウ	399	840	648
60		<i>Achnanthydium minutissimum</i>	ツメワカケイウ		48	
61		<i>Achnanthydium pyrenaicum</i>	ツメワカケイウ	9,595	12,600	5,160
62		<i>Cocconeis pediculus</i>	コバンケイウ	19		
63		<i>Cocconeis placentula</i>	コバンケイウ		48	24
64		<i>Planothydium lanceolatum</i>	フトスジ ツメワカケイウ			
65		<i>Nitzschia dissipata</i>	ササハケイウ	38	480	480
66		<i>Nitzschia fonticola</i>	ササハケイウ	779	2,952	2,880
67		<i>Nitzschia frustulum</i>	ササハケイウ			
68		<i>Nitzschia inconspicua</i>	ササハケイウ			
69		<i>Nitzschia linearis</i>	ササハケイウ			
70		<i>Nitzschia palea</i>	ササハケイウ			
71		<i>Nitzschia paleacea</i>	ササハケイウ			
72		<i>Nitzschia perminuta</i>	ササハケイウ	95		
73		<i>Nitzschia vermicularis</i>	ササハケイウ			
74		<i>Surirella bifrons</i>	オオバンケイウ			
75	緑藻類	<i>Ulothrix zonata</i>	ヒビ <sup>ミ</sup> ト <sup>ロ</sup>	285	144	
76		<i>Cloniophora sp.</i>	クロニオフォラ			
77		<i>Stigeoclonium sp.</i>	キヌミト <sup>ロ</sup>	95		72
78		<i>Cladophora crispata</i>	シオク <sup>サ</sup>			
79		<i>Spirogya sp.</i>	アオミト <sup>ロ</sup>			24

\*: 糸状体数、他は細胞数

イ 出現種の分類学的集計結果

分類	調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
藍藻類 Cyanophyceae		2種	3種	2種
珪藻類 Bacillariophyceae		26種	24種	24種
緑藻類 Chlorophyceae		2種	1種	2種
種数合計		30種	28種	28種
細胞数合計 (1 mm <sup>2</sup> 当たり)		24,320	27,960	15,360

ウ 付着藻類の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	和田橋	楓橋
優占種 (優占度%)	<i>Achnanthydium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (39.5%)	<i>Achnanthydium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (45.1%)	<i>Achnanthydium pyrenaicum</i> ツメワカレケイソウ (33.6%)
第2位優占種 (優占度%)	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> クチビルケイソウ (27.7%)	<i>Cymbella turgidula</i> var. <i>nipponica</i> クチビルケイソウ (11.9%)	<i>Nitzschia fonticola</i> ササノハケイソウ (18.8%)
第3位優占種 (優占度%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (8.2%)	<i>Nitzschia fonticola</i> ササノハケイソウ (10.6%)	<i>Homoeothrix janthina</i> ビロウドランソウ (9.4%)

## (5) 底生生物調査結果 (調査日：令和6年8月23日)

## ア 出現種一覧

単位：個体数/30cm×30cm×2回当たり

分類	調査地点	市民球場
水生昆虫 蜉蝣目 (カゲロウ)		
1 ヒメトビイロカゲロウ <i>Choroterpes altioculus</i>		13
2 モンカゲロウ <i>Ephemera strigata</i>		2
3 マダラカゲロウ属 <i>Ephemerella sp.</i>		1
4 アカマダラカゲロウ <i>Teleganopsis punctisetae</i>		12
5 エラブタマダラカゲロウ <i>Torleya japonica</i>		12
6 ミツオミジカオフトバカゲロウ <i>Acentrella gnom</i>		5
7 ミジカオフトバカゲロウ <i>Acentrella sibirica</i>		4
8 トビエラトビイロカゲロウ <i>Nigrobaetis acinaciger</i>		15
9 Dコカゲロウ <i>Nigrobaetis sp.D</i>		6
10 コバネヒゲトガリコカゲロウ <i>Tenuibaetis parvipterus</i>		34
11 コカゲロウ科 <i>Baetidae</i>		5
12 シロタニガワカゲロウ <i>Ecdyonurus yoshidae</i>		4
13 タニガワカゲロウ属 <i>Ecdyonurus sp.</i>		6
14 エルモンヒラタカゲロウ <i>Epeorus latifolium</i>		5
15 サツキヒメヒラタカゲロウ <i>Rhithrogena tetrapunctigera</i>		1
毛翅目 (トビケラ)		
16 ナミコガタシマトビケラ <i>Cheumatopsyche infascia</i>		7
17 コガタシマトビケラ属 <i>Cheumatopsyche sp.</i>		5
18 ウルマーシマトビケラ <i>Hydropsyche orientalis</i>		2
19 シマトビケラ属 <i>Hydropsyche sp.</i>		2
20 ヒゲナガカワトビケラ <i>Stenopsyche marmorata</i>		9
21 ヤマトビケラ属 <i>Glossosoma sp.</i>		5
22 ヒメトビケラ属 <i>Hydroptila sp.</i>		1
23 ムナグロナガレトビケラ <i>Rhyacophila nigrocephala</i>		4
24 ナガレトビケラ属 <i>Rhyacophila sp.</i>		1
25 カクツツトビケラ属 <i>Lepidostoma sp.</i>		6
26 セトトビケラ属 <i>Setodes sp.</i>		1
双翅目 (ハエ)		
27 ウスバガガンボ <i>Antocha sp.</i>		18
28 ヒゲナガガガンボ <i>Hexatoma sp.</i>		2
29 サワユスリカ <i>Potthastia sp.</i>		6

30 ナガレユスリカ <i>Rheotanytarsus sp.</i>	1
31 エリユスリカ <i>Orthocladiinae</i>	6
32 モンユスリカ <i>Tanypodinae</i>	7
33 ユスリカ <i>Chironomidae</i>	4
鞘翅目 (コウチョウ)	
34 シジミガムシ属 <i>Laccobius sp.</i>	1
35 ヒメドロムシ亜科 <i>Elminae</i>	1
36 マルヒラタドロムシ属 <i>Eubrianax sp.</i>	1
扁形動物	
37 三岐腸目 <i>Tricladida</i>	17
紐形動物	
38 ミミズヒモムシ属 <i>Prostoma sp.</i>	1
軟体動物	
39 カワニナ <i>Semisulcospira libertina</i>	1
40 モノアラガイ科 <i>Lymnaeidae</i>	9
41 ヒラマキガイ科 <i>Planorbidae</i>	1
環形動物	
42 ミズミミズ属 <i>Nais sp.</i>	1
43 ミズミミズ科 <i>Naididae</i>	18
節足動物	
44 ダニ目 <i>Acarina</i>	29

イ 出現種の分類学的集計結果

分類	調査地点	市民球技場
水生昆虫	蜻蛉目 (カゲロウ)	13種
	毛翅目 (トビケラ)	3種
	双翅目 (ハエ)	9種
	鞘翅目 (コウチョウ)	1種
扁形動物		1種
環形動物		1種
節足動物		1種
細胞数合計 (30cm×30cm×2回当たり)		277

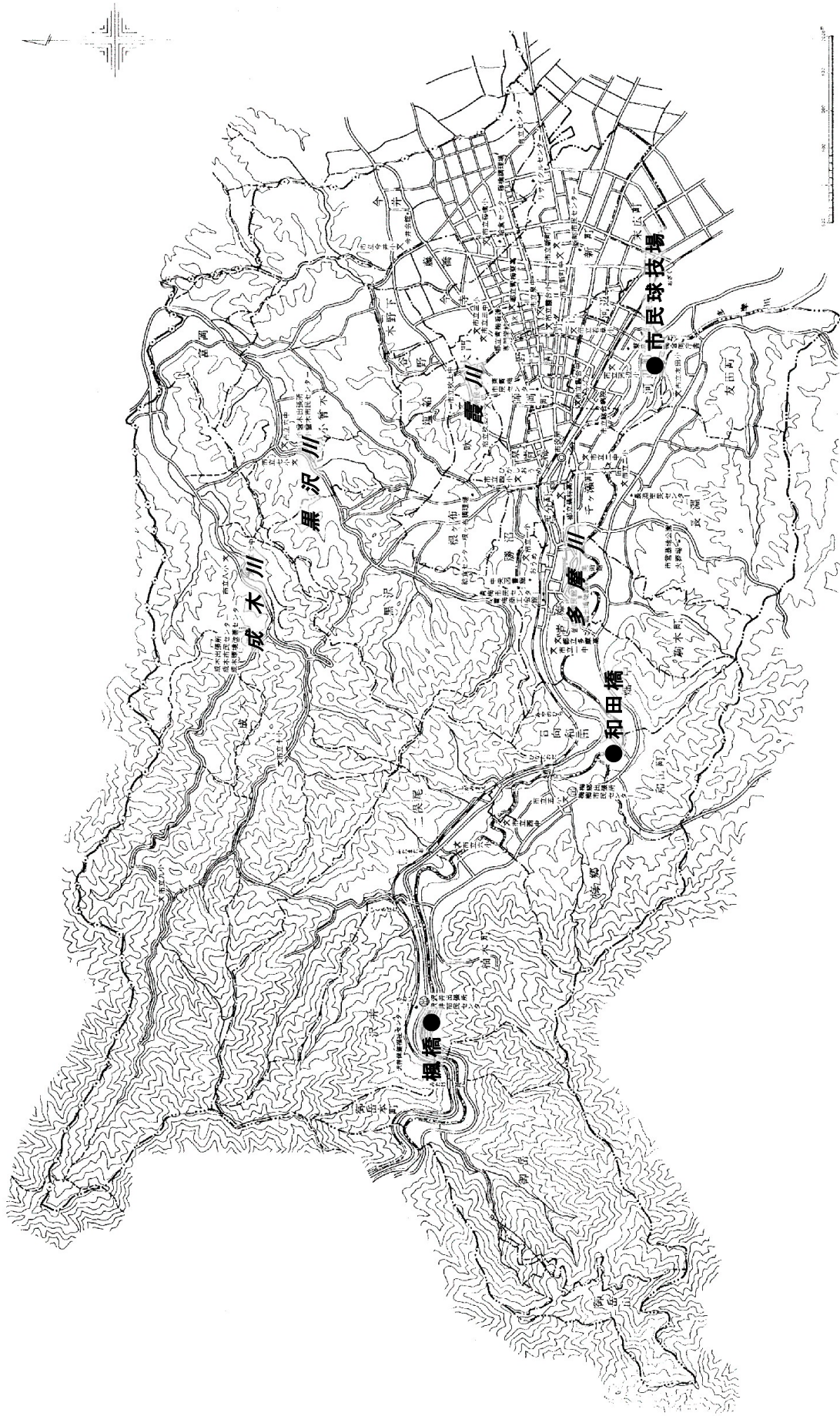
ウ 底生生物の優占種と優占度

調査地点	市民球技場	
優占種 (優占度%)	<i>Baetis taiwanensis</i> フタモンコカゲロウ (12.6%)	
	<i>Acarina</i> ダニ目 (10.5%)	
	<i>Choroterpes altioculus</i> ヒメトビイロカゲロウ (9.7%)	<i>Rhyacophila nigrocephala</i> ムナグロナガレトビケラ (9.7%)

(6) 定性分析結果 (調査日: 令和6年12月16日)

調査地点	市民球技場
確認された主な鉱物	石英
	曹長石
	灰長石
	白雲母

藻類・底生生物調査地図



5 ダイオキシン類調査結果（東京都調査）

1 河川  
(1) 水質

単位：pg-TEQ/L

調査地点	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度		
	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均	春季	秋季	年平均
多摩川（和田橋）				0.062	0.062	0.062				0.062	0.062	0.062				0.062	0.062	0.062
成木川（両郡橋）				0.063	0.063	0.063				0.064	0.064	0.064				0.063	0.063	0.063
黒沢川（落合橋）	0.068	0.066	0.067				0.067	0.071	0.069				0.069	0.069	0.069			
霞川（金子橋）				0.091	0.072	0.082	0.067	0.071	0.069	0.074	0.072	0.073	0.069	0.069	0.069	0.091	0.069	0.08

※環境基準：1pg-TEQ/L以下 平成22年度から成木川（両郡橋）における調査は年1回となった。

(2) 底質

単位：pg-TEQ/g

調査地点	令和元年度			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			令和6年度		
多摩川（和田橋）				0.21						0.21								0.21
成木川（両郡橋）				0.28						0.30								0.36
黒沢川（落合橋）	0.64						0.50						0.49					
霞川（金子橋）				1.10						1.30								1.80

※環境基準：150pg-TEQ/g以下

2 土壌

単位：pg-TEQ/g

調査地点	調査年度	測定結果
大門3丁目	平成13年度	120
長淵6丁目	平成13年度	52
河辺町8丁目	平成15年度	17
沢井2丁目	平成15年度	0.26
成木4丁目	平成15年度	32
河辺小学校	平成20年度	0.18
天ヶ瀬町	平成25年度	1.6
柚木町1丁目	平成27年度	6.5
河辺町1丁目	令和2年度	4.2
小曾木3丁目	令和6年度	0.52

※環境基準：1,000pg-TEQ/g以下

平成14, 16~19, 21~24, 26, 28~令和元年、3~5年度は青梅市内調査なし

3 地下水

単位：pg-TEQ/L

調査地点	調査年度	測定結果
御岳2丁目	平成12年度	0.069
沢井2丁目	平成12年度	0.073
黒沢3丁目	平成12年度	0.072
木野下2丁目	平成12年度	0.076
御岳1丁目	平成13年度	0.062
柚木町2丁目	平成13年度	0.055
根ヶ布1丁目	平成13年度	0.055
今井1丁目	平成13年度	0.056
長淵2丁目	平成13年度	0.055
富岡3丁目	平成15年度	0.065
長淵8丁目	平成15年度	0.065
今寺1丁目	令和元年度	0.038

※環境基準：1pg-TEQ/L以下

平成14, 16~23, 25~30年度, 令和2~6年度は青梅市内調査なし